

# 夢

Bブロックにエントリーされた全8作品を公開します。

覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。

## 夢というもの

絶壁でのロッククライミング、あと少しというところで……

まだぼんやり暗い明け方、私ははっと目を覚ます

よかった、夢だ

夢というものはどうしてこうもわがままなのか

落下する瞬間、脳裏に現れた死の一文宇

鼓動も息も落ち着いたまま冷汗もかかないままに感じる恐怖

こうも無遠慮に五感に働きかけ、心を揺さぶりながら

あつという間に私を突き放す

夢の中では心がむきだしになって

実際何の音も聞かず何も見ず動いてもいないのに、感じとっている

このむき出しの心で、あの景色を、あの曲を感じられたら

どんなに幸福かshれないのに

夢というものはどうしてこうも急ぐのか

あれほど怖かった夢の記憶も、家を出る頃には思い出しがたいほど薄れて  
いた

ガチャン

空っぽの部屋に響く錠の音

少し暖かい穏やかな朝

## 夢

小学三年生。教室で笑い声が響く。隣のあいつに尋ねてみる。

「おまえの夢は？」

大抵のやつがこう言ってたよ。「プロ野球選手」彼らは堂々と言つてのけたもんで、迷いなんてなかった。マジでなれると思つてるからさ。何だつてありだった。

中学二年生。学力で偏差値や順位とかつき始めた。個表が返されて、教室にこだまする喜怒哀楽。隣のあいつに尋ねてみた。

「おまえの夢は？」

「宇宙飛行士」とか言つてるやつはカッコいいよ。皆だいたい無難なこと言うんだ。「わかんねー」とか。本当に考えてないやつもいるけど、本当にわからなくなつてくよな？努力が伴わない現実と、努力も才能も伴わなくてはならない夢の間を彷徨つたりして。

高校三年生。シャーペンを握つて、皆勉強する。真剣だ。みんな気づいちやつたか。勉強しないといい大学いけないし、いい就職できないもんな。それが社会のルールだし、一番安全で、多数派で、確実だもんな。隣のあいつは言う。「まあ無難にいい大学入つとかねえと就職がやばいって」

いつからそんなこと言うようになったんだよ？プロ野球選手って言つてただよ？どうしたんだよ。いつかみたいになんか言つてくれよ。なあ、僕らは階段を上がることに色んなこと知つて・・知りすぎちやつて怖気づいて、そしてどっかで諦めちゃうんだよな。だったら知らないほうが良かったよ。俺ら何言つても笑われなかつたし。自由だった。マジで何かやれると思つてたんだろ？・・・でもまだ知らないことつていっぱいあるよな。これから沢山自分試される機会あるよな。でも、これからはもう・・・諦めずに進まないか？今度もう一度聞くからさ

「おまえの夢は？」って。

うさぎ、作家、天文学者、考古学者。

一見、何の関連性もないような、この単語の羅列は私が幼稚園から小学生にかけて「将来の夢」に挙げた仕事だ。

思い起こしてみれば幼稚園、小学校のころは惜しげもなく自分の夢を語っていた。それはもちろん、「将来の夢」と進路が明確に結びついていなかったせいもあると思うけれど。

夢なんて言っているうちは実現しないじゃん、と屁理屈を言うようになったのは中学生だったと思う。それからすっかり、私は夢を語ることに、夢を見つけないことすら忘れていたらしかった。改めてそれを意識したのはごくごく最近のことだ。

大学の入学手続き書類での記入欄「趣味」や「高校の時のクラブ」などと一緒であった「将来の夢」という項目はわからない問題として後回しにされ、暫く空欄として放置されてからそれらしい薄っぺらい言葉で埋められることになった。けれど、それではこの問題を根本的に解決したことはない。問題の答えを参考書から書き写したのと大して変わらない。

春休み考えた末の今の夢は大学生のうちに「生涯追いかけられる夢」を見つけてみることに。これを、長いようで短いことはわかりきっている4年間のうちに達成するのが夢だ。今は「夢」も「目標」でも構わない。精一杯、これからの生き方を探していけたらいい。

結局本物の「将来の夢」を私はまだ見つけれられてはいない。しかし、この問いかけによって、私は自分の未来を描くための道具となる「夢」を改めて見つけることが出来たのだと思う。

B-4 あの人の周りに集っている人達が、羨ましかった。

暖かそうだなあ、つて。

楽しそうだなあ、つて。

ずっと懂れてた。

私はこんな見てくれだし、なんの取柄もないし……。

でも、やっぱり淋しかったから、私も密かに端の方で輪に加わってみた。

たぶん、すごくぎこちなかったと思う。

ある日、そんな私を見つけてくれた人が居た。

生まれて初めて、私の心に光が差し込んだ。

しかも、その人は私をその仲間に入れてくれた。

とても、とても嬉しかった。

でも、それも今日で終わり。

やっぱり私はみんなと回る資格のない、ちっぽけな存在だったんだ。

今まで、ゴメン。

今まで、ありがとう。

私はまたあの寒いところへ戻ります。

でも、きっと大丈夫。

こんなにたくさんさんの暖かい思い出を貰ったんだもん。

全然寒くなんか…… ないよ？

これからも、ガンバって回っていようと思います。

頭では絶対あり得ないってわかっているけど、それでも私は願っている。

できれば、またいつか、みんなの仲間として、みんなと一緒に回りたい。

## いつかあなたに辿り着くまで

ふと気付くと、橙色の丘に私は独り佇んでいた。高い木は視界の隅の桜一本だけ、あとは見渡す限り雑草の絨毯が敷き詰められた小高い丘。遥か向こうには私の住む、海を臨む物静かな街並みが広がっているのが見える。

この丘は、私のお気に入りの場所だ。街の喧騒も届かず、海風が潮の香りだけを微かに運んでくる。それを、夕日の暖色とともに体で感じるのが、私は好きだった。

——彼と、一緒に……。

ある秋の日、憧れだった人に告白して、見事に振られて泣いていた私に、彼はこの景色を教えてくれた。知らず泣き止んでいた私を見て、そっちのがいいよ、と彼は笑ってみせた。それに笑顔を返したその日から、彼とこの丘を訪れるのが私の毎日となった。

——その彼が、私の前からふつと姿を消したのは、私がやつとの思いで彼への言葉を考えた日の朝ことだった。伝えたいことも伝えられないうちに、彼は遠いところへと行ってしまった。とても追えそうにない、とても遠くへ……。

鼻の奥がツンと痛み、目頭が熱を帯びる。たくさんの思い出が染み込んだこの丘は、一人では広すぎる。息が苦しくなった私は、思わず胸を押さえて絨毯に膝をついていた。

今すぐ逢いたいのに、もうあなたはどこにもいない。どこにもいないのに、思い出だけはこんなにも溢れてくる。こんなのひどい……ねえ、ひどすぎるよ——

——ぼん、と不意に頭に手を置かれ、私ははつと見開いた目を上げた。なんて顔してんだお前……。琥珀色に染まった顔で、そう苦笑する彼がそこにいた。しばし呆けたように、その顔をぼんやりと見つめ返す。やがて、ふらふらと立ち上がった私は、目のあたりに柔らかな温かさを感じながら、誰のせいよ、と口にしていた。

……そうだな、笑顔の方がいいって言ったくせにな。でも、それでも俺は、お前にはずつと笑ってほしいんだ。今の俺には、お前を見守ることしか出来ないけどさ。

勝手だよ、と拗ねるように言った私の声は、どことなく笑顔だった。それを感じたらしく、ごめんね、と彼は微笑った。——その姿がふと、周りの景色とともに薄れる。

待って！ 私は思わず叫んだ。それはしかし、彼を永遠に繋ぎとめようとする言葉ではなく、今ひとたびの時間を欲する響きだった。だって、私たちは——

……大好きだよ、ずっと。

全てが白に包まれる瞬間、彼は確かに、ありがとうと笑っていた……。

ゆっくりと開いた目に、窓から差し込む朝陽が白く染みだ。いつになく素直に目を覚ました私は、そのまま上体を起こして目を擦った。涙の感触はやはり確かにそこにあっただけ、その中にいつものような哀しみは混じってはいなかった。

首を巡らせ、机の上の写真立てに目を向ける。私の肩を抱き、底抜けの笑顔を見せてくる彼の姿。私はふつと、何週間ぶりかの本物の笑顔を浮かべ、おはよう、と言った。

ねえ、あなたのことは絶対に忘れないよ。けど、泣くのはもうやめにしようと思うんだ。すぐには無理かもしれないけど、いつかききと……。だって、私は今も一人じゃないんだから。あなたが、ずっと見守ってくれてるんだから——

……ね、そうだよ？

窓を開け、あそこにいるはずの彼を確認すると、私は支度を始めた。新しい今日の。

——私は、今を精一杯生きようと思う。いつか彼に逢えた時、胸を張れるように……。

友達

俺に彼女が出来た。

僕は失恋した。

同窓会で五年ぶりに再会し、一ヶ月の友達期間を経て俺は告白を決意した。

久々に見た彼女はとても可愛くて、でも友達の域を超える勇氣は僕にはなかった。

どうやらあいつも俺のことを気になっていたらしい。告白すると少し照れながら笑った。

しばらくして彼女に好きな男が出来た。両思いらしく、すぐに彼女達は付き合い始めた。

あいつはメールでは意地悪な事を言ったりするが、会うと素直に俺に甘えてくる。そんなあいつを見て俺はどうしてもにやけちまう。

彼女は彼氏とのメールの内容を報告しながら惚気てくる。今の僕には彼女に対して偽りの笑顔を返す事しかできない。

俺はそんなあいつをこれからも大事にしていこうと思ってる。あいつは俺の彼女で、俺はあいつの彼氏。この関係はいつまでも壊れる事はない。

僕には彼女の幸せをただ祈る事しかできない。なぜなら僕と彼女は友達同士で、それ以上でもそれ以下でもないから。そしてそれはこれからも変わらない。

そしてふと思う。あいつと付き合い合わなかった過去、あいつのいない未来を。

そして僕は夢を見る。決して実現することのない未来、叶わなかった過去を。

夢  
は

ム  
りと言われても

イ  
つかきつと

リ  
っぱに

ド  
うにかこうにか

い

た

え

叶

ユメクイ

僕はバク。

あ、空想上の生き物のほうね。

よく夢を食うやつって言われてるんだけど、あれほんとなんだ。

名前だって夢をバクバク食うから「バク」って名づけられたんだし。

・・・ごめん。それはさすがにうそだけ。

僕の仲間にはいいやつと悪いやつがいて、

僕みたいがいいやつは悪夢だけを食べて人を助けてあげるんだけど、

悪いやつは夢ごと魂を吸い取っちゃうんだってさ。

しかもそいつら、ほんとはバクじゃなくて、

ちよっとした霊が集まって僕らと同じ形をしてるだけってうわさもあるんだ。

ほんと、いい迷惑だよ。

でも、そんな僕も悪夢ばかり食べてると飽きるわけなんだよ。

人の不幸は蜜の味って言うけど、

蜜ばかりなめてても飽きるっしょ？

で、前にいい夢を探しているんな人の夢の中を飛び回ったんだよ。

今、季節は春だから、さくらの夢が多くてさ。みんな夢に癒しを求めているよね。

さくらの下で気の合う仲間と騒いでたり、飲んでほしやぎまわったり。

でも、僕が一番気に入ったのは、

たった一人で公園のベンチに寝転がって、ただただ夜空を見上げてる人の夢。

その人はとても穏やかで、とても幸せそうな顔で。

人の幸せって、

お金儲けたり、仕事で認められたり、

人それぞれだと思っけど、

僕はこんな穏やかさがほんとの幸せなんだろうな、って思った。

あ、ちなみにこの人の夢は食べてないよ。

夢食べるとその人はその夢を忘れちゃうからね。

というより、幸せそうな顔見ただけでもうお腹いっぱいだし。

ごちそうさまでした。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	光	2 pt	7 位	0 sp
		夢は無へと溶けてゆくもの、人の生はその対極、というように、通常の甘やかな夢とは逆の発想で組み立てたところが秀逸です。影を濃く引くがゆえに、いっそう明るさが際立つ。いつまでも心に揺らめきを残しそうな今週の表紙作品です。 イチオシフレーズ：「静かに壊れてしまいそうな繊細な光」		
A02	自問	25 pt	1 位	1 sp
		星にたとえた導入部の巧さが光ります。可塑的vs固まり、という字句で説明した構成の工夫もGOOD! ただまとも3行がありきたりだったか。 そう華やかな作品でもないな、と思っていたのですが、等身大の感懐がさくっとヒットしての首位、おめでとう! 特別賞：べすと賞		
A03	夜空に星三つ	0 pt	8 位	0 sp
		白月祭に空詠祭、きれいなタームでいきなり読者の心を異次元にさらいます。ふぁんたすていっく! 「あいつ」の存在が必要なのがギモンだったのですが、どうでしょう。ふたりっきりのロマンティックな夢のほうが、この白いピュアな舞台には似合うのでは。		
A04	父子	12 pt	3 位	8 sp
		まさに話題作！ コント風の軽さが身上。 情景描写が全くないので、父子の姿を好きなように想像できるのも楽しさ倍増です。私はカニの父子を想像したのですが、みなさまは？ 特別賞：班長特別賞/勇気あるで賞/藤原賞/男の夢で賞/妄想賞/タイトル賞/ロマン賞/やってしまった賞 と8つもget!! イチオシフレーズ：「男の夢(ロマン)だな。」×7 「ぼくもLucid Dreamerになりたいなあ」「・・・!!」 「ちょっと想像してみて・・・」で、イチオシフレーズ大賞も受賞です。しかししかし、「男の夢だな。」が7票もカクトクだなんて、Aブロックのみなさまの好みは(以下略)		
A05	宙ぶらりんの夢	11 pt	5 位	1 sp
		故郷を出て、でもまだ夢を追う途上。 駅という舞台設定が、その宙ぶらりん感をうまく演出していると感じました。彼の今の気持ちが敢えて書かれないのも、いろんな解釈ができそうです。 特別賞：田舎賞		
A06	状況において変動する意思の行方	12 pt	3 位	2 sp
		いきなり「もみあげ」で、つかみOK。追いつめられた状況を自嘲とともにお届け。 ドン底状況なのに、むしろ、ここまで落ちたからこそ漂ってくるユーモアがリズムよく入ってきます。 特別賞：もみあげ賞/A13賞 イチオシフレーズ：「部長のモミアゲちぎって投げた」「出家でもしようかな」「NO JOB男」「sorry my father」		
A07	夢製造者	22 pt	2 位	2 sp
		あざやかに叶うのではなく、渋く、だんだんに叶うという夢の設定が、町工場老人というカタチときれいにシンクロして、まとまりのよいショートストーリーになりました。 初めは傍観者のつもりだった「私」がいきなり渦中に巻き込まれるラストに拍手。 特別賞：世にも奇妙な物語で賞/長かったで賞		
		6 pt	6 位	1 sp

A08	夢で逢いたい	<p>喪ってしまったあのひとを思う。決して届かぬ一方通行の思い。ありきたりの悲しみに溺れることなく、「笑う」とまとめたラストが、よけいせつなく心にしみます。</p> <p>飾りすぎない言葉のつよさ、届いたでしょうか。</p> <p>特別賞：悲しいで賞</p>
-----	--------	---

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位特別賞
B01	夢というもの	<p>日常と非日常。現実と夢。鍵ひとつが分水嶺になる合わせ鏡。その向こう側の、とらえがたい茫漠とした恐怖のかたちをすぼりとつかまえて、ダイレクトに触感に訴えてくるような表紙作品でした。</p>	0 pt 7 位 0 sp
B02	夢	<p>たしかにね、小さくなってくよね、とA - 2と同じ論点ながら、これ以上は小さくならないぞ、という決意が親しみやすい口調で語りかけられて、共感力大でした。</p> <p>イチオシフレーズ：「おまえの夢は？」× 2</p>	27 pt 2 位 0 sp
B03	将来の夢について	<p>小さな記入欄から広がる思いをさらりと吐露。その飾り気のなさで、これも共感力大。特に「うさぎ」！</p> <p>イチオシフレーズ：「うさぎ」「今は夢 = 目標でも構わない」</p>	0 pt 7 位 0 sp
B04	冥王星の夢	<p>わあ、うまい!!</p> <p>ラストのひとつことで、すべての伏線がきれいに結ばれて、何だか涙ぐんでしまうくらい、せつなさがはじけます。一票差の接戦を制しての首位、おめでとう！</p> <p>特別賞：オチ賞× 2 ぶっとび賞 タイトル賞</p> <p>イチオシフレーズ：「冥王星の夢」</p>	28 pt 1 位 4 sp
B05	いつかあなたに辿り着くまで	<p>好きな人に逢える丘。ロマンティックな夕景から爽やかな朝の決意へと場面転換のうまさ叙情を盛り立てて、ベタだけどしんみり。</p> <p>特別賞：努力賞</p>	8 pt 5 位 0 sp
B06	友達	<p>ふたりはともだち、三角関係。レイアウトの工夫で天と地ほど差のある人間関係をくっきり見せてワザあり と読んだのに作者さんの解説を聞いて唖然。上は夢、下は現実、ということなのだそう。B1班は「メビウス」説（終わりからまた始めに戻る）まで出していたのにつ。</p> <p>特別賞：メビウスで賞/構成賞/技能賞</p> <p>イチオシフレーズ：「俺に彼女が出来た」</p>	10 pt 4 位 2 sp
B07	夢は	<p>レイアウト勝負が続きます。こちらはドリームと変換したところがヒットでした。</p> <p>まあ、あまりこの路線ばかりでは文章力向上にならないけれど、息抜き箸休め、もしくは表紙作品を狙う方はどうぞ。</p> <p>特別賞：めんどくさかったで賞？/俺らは好きで賞/B8賞/インパクト賞</p> <p>イチオシフレーズ：「どうにかこうにか」「ドリーム叶えたい」× 2 「叶えたい」「ドリーム」で、イチオシフレーズ大賞受賞です。</p>	2 pt 6 位 4 sp
B08	ユメクイ	<p>一人称の語りのおかげで、バク君の人(?)格が伝わってきて、友達気分で読めます。気のいいノンキなやつ、という感じでしょうか。穏やかな読後感で、今週の読み納めでした。</p> <p>特別賞：いい夢見せてもらったで賞/特別賞/バク賞</p> <p>イチオシフレーズ：「ごちそうさまでした。」× 3 「人の不幸は.....」</p>	15 pt 3 位 2 sp